

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1176501862		
法人名	メディカル・ケア・サービス株式会社		
事業所名	愛の家グループホーム大宮吉野町		
所在地	さいたま市北区吉野町2-263-4		
自己評価作成日	平成27年1月18日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社プログレ総合研究所		
所在地	埼玉県さいたま市大宮区大門町3-88逸見ビル2階		
訪問調査日	平成27年1月21日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・・看取りに取り組んでいます。
我がホームも開設以来12年近くなり入居されている方々も高齢になってきました。長く入居されておりホームが本当にわが家のようになっています。特に医療処置が必要とされない状態であれば長年、住み慣れたホームからの旅立ちのお手伝い出来るようにと取り組んでいます。又、その為にホーム・往診医・家族との橋渡し出来るよう連携を密にする取り組みも心がけています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所を開設して12年近くになる。長く事業所で生活している利用者も多くなり、住み慣れた我が家のようになっている。管理者を始め職員は明るく、コミュニケーションもよく取れていて、常に利用者の目線にあった支援に努めている。地域との交流も活発になってきて、事業所主催のお花見、納涼祭、芋煮会などに地域住民を招待したり、隣接の公園で開催される運動会に参加している。また、健康管理を第一に考えて医療との連携を重視し、月二回の往診、毎週の訪問歯科、訪問看護と充実している。そして、終末期の対応についても、事業所、家族、往診医などが連携を密にして、キメ細かく対応するよう心掛けている。なお、事業所での見取りの経験もある。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ケアの方針を決定する時など理念を頭におき考えるようにしている。又、会議の都度、復唱している。	事業所のケアの方針を決める際に、「ケアの信条」を常に念頭に置いている。クレドは職員全員が携行して、各自確認している。また、会議の冒頭でも唱和して、理念の共有を行っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎年ホームで納涼祭、芋煮会等を開催し地域の人々に声掛けしたりポスター掲示で呼びかけたり参加していただいているが、日常的ではない。	事業所主催のお花見、納涼祭、芋煮会などに、地域の住民も参加して、交流が出来る。自治会にも入会。また、歌のボランティアが2週間に1回来訪し、利用者に喜ばれている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホーム長から運営推進会議で出た、必要な情報はフロア会議の際にスタッフに報告するようにしておりサービス向上に努めている。	2か月に1回定期開催している。参加者は家族会の会長、自治会長、民生委員、担当ケアマネジャーなどである。歌のボランティアは、会議での提案から実行に移されたもので、好評である。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議への参加を呼びかけ、ホームの中での取り組みや情報を伝えている。	個別事項の変更、申請については、市の窓口に出向いて相談している。また、認知症サポーター養成講座に力を入れていて、職員の知り合いや歯科衛生士などを集めての研修会も実施している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	目に見えない拘束をしないよう言動にも注意している。ただ、玄関の開錠には到っていない。	法人統一のマニュアルがあり、研修等で理解を深めている。日々のケアの中でも、身体拘束のみならず、目に見えない拘束をしないように、言葉づかいなども注意している。なお、玄関は安全のため施錠している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の面会の際には管理者、職員ともなるべく話す機会を持ち、なんでも話せるような関係作りに努めており、ケアプランへの反映上、意見交換を出来るようにしている。	毎年法人本社が家族アンケートを実施している。家族から頂いた要望や意見を毎年の事業所の目標として決め、日々のケアに生かしている。このアンケート結果や目標は事業所内に掲示して共有している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は日頃からいつでも職員の意見や提案、悩み等が話せるように心がけ、運営者に提案すべき事や職員の訴えなどその都度報告しています	法人本社が職員向けアンケートを毎年実施し、職員の意見や要望を汲み取っている。また、外部機関による、職員専用の電話相談窓口もある。事業所内では、定例の個別面談を行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族には毎月お手紙により様子を伝え、状況がわかるようにしている。又、何度も訴えがある場所などは出掛けられるように支援している。	家族や友人、親戚の来訪が多い。地域主催の夏祭り、文化祭、隣接の公園で開かれる運動会などにも積極的に参加している。個別では、図書館通い、帰宅など関係が切れないように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の談話の中でそれとなく聴いたりして、個々のスタッフがそれぞれ把握に努めている。又、その中で実現できそうな事はできるように検討している。	家族との面談を中心に希望や意向を把握し、ケアプランに反映させている。日々のケアの中で寄り添いながら利用者の気持ちを把握するよう努めている。小さなことができるよう、維持できるよう支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人からの要望をよく聴き、また家族等の面会時にも要望を聴くようにしておりケアプランに反映する為毎月、話し合いを行っている。	健康維持を重点におき、水分摂取、食事、排泄等々をチェックしている。基本3か月に1回の見直しと毎月のカンファレンスで身体状況や目標の達成度をチームで共有し介護計画に反映させている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	通院介助等の協力は積極的に行っている。訪問診療、居宅療養管理指導のもと24時間医療連携を行っていると共に外部受診の希望にも添うようにしている。	集団と個別での往診が合わせて月2回、訪問歯科や訪問看護は毎週来訪している。また、往診のクリニックと連携を密にして、早め早めに健康状態を事前連絡するように努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時にホーム側で行える事は説明しており、また、状態が悪くなってきたらその都度状況を報告し、方針を共に決めていけるよう努めている。又、実際に看取りも行ったが今後、増えていく予想に十分な支援が行えるように取り組んでいく。	契約時に、重度化や終末期にかかる指針を丁寧に説明し同意を得ている。終末期の看取りについては、家族、医師、事業所がどのように対応するか連携を密にしている。なお、事業所における看取りも行った経験がある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	各種の想定訓練は定期的実施、シミュレーションしている。又それを運営推進会議で報告している。	避難訓練は年2回行い、うち1回は夜間想定で実施している。消防署の立会も1回あり、スプリンクラーや火災報知器の使い方や点検も行っている。備蓄品は、飲料水、乾パンなどで1週間分蓄えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	スタッフは同じ空間で過ごし、さりげなく状態を把握し監視的でない見守りやプライバシーを損ねない対応を心掛けている。又、ケアプランにもその人らしいプランになるよう努めている。	個人情報については、同意書を頂いていて、鍵のかかるロッカーで管理している。プライバシーについては、トイレはカーテンで仕切り、入口に「入ってます。」と掲示して羞恥心に配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	本人の状況に応じた食事が出来るよう支援し、献立表を掲示し入居者が見て楽しむようになるようにしている。できる方には出来る範囲での片づけをお願いしている。	厨房があり、献立表を掲示している。日曜日などは夏はかき氷、冬は甘酒などを一緒に作り楽しんでいる。イベント食には出前寿司、屋台のラーメン、パンの販売などがあり、多彩なメニューで対応している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を使用し尿意のない入居者に対しても適時対応するようにトイレ誘導などを行っている。	トイレでの排泄を基本方針にしている。一人ひとり排泄チェック表で確認しながら、トイレ誘導している。特に排便について重点に確認している。夜間についても定時にトイレでの排泄支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本的にその日の入浴はご本人本位としており、必要性の高い方は強制でなく誘導して入ってもらうように声かけをしている。入浴剤や入浴中ゆっくり話を聞くなど楽しめるよう心がけている。	毎日午後の時間帯で、週に2回～3回入浴して頂いている。入浴を拒否する人には、入浴剤などを使い雰囲気を変え入浴を促している。また、季節を感じるゆず湯や菖蒲湯も好評である。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎日天気の良い日は本人の意思を確認の上、散歩など実施している。又、会話に出てきていた図書館にも一緒に出掛けたりしている。	隣接して公園があり、晴れた日は毎日散歩を楽しんでいる。本人の希望による帰宅や家族と一緒に外食も行っている。また、初詣、桜見物、いちご狩りなども楽しみの一つとなっている。	利用者が重度化する中で、健康管理を最重点に、外出のみならず、日々の生活の中で一人ひとりが楽しいと思える個別の支援を期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者、行事時等の写真を貼り明るい空間作りに努めている。その方によってはテレビを消したりカーテンを引くことなど工夫している。	リビングなど共有スペースは広く、冷暖房や加湿器などが整っている。廊下の壁には、職員手作りの四季を感じる切り絵や、楽しかったお誕生日会や外出の写真が飾られていて、心地よい空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際なるべく馴染みのある物で空間を作ってもらよう説明している。洋服も今まで着ていた物を持ってきてもらい、使い慣れたものを使うようにしてもらっている。	エアコンと洗面台は備え付けで、それ以外は、自宅で馴染みだったものや、使い慣れたものを何でも持ち込んでいる。掃除は居室担当が行い、出来る人には手伝って頂いている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している			